

地域と繋がり合うひろばを目指して

社会福祉法人 福音寮

塩野 有沙

(親子の育ち 地域支援 繋がり)

1. 目的

社会福祉法人福音寮のおでかけひろばは、今年で13年目を迎えます。妊娠期からの切れ目のない子育て支援に力を入れ、地域の多くの子育て家庭に利用してもらえるよう周知活動に力を入れています。令和元年度から猛威を振るい始めた新型コロナウイルスの影響により、これまでとは違う環境での育児が始まり多くの方が不安を抱えていました。対面でコミュニケーションをとることが以前よりも難しくなりましたが、いつでもふらっと立ち寄れてほっとできる空間として変わらず地域にあり続けられる様、コロナ禍でも感染症対策をした上で開所しています。ぽっぽちゃんひろばと地域の繋がりについてや、社会福祉法人福音寮が地域に果たす役割について知っていただけたらと思います。



2. 実践内容

福音寮ぽっぽちゃんひろばでは、コロナ禍でも繋がり合うことを目指し、いくつかの取り組みをしてきました。その中から二つご紹介させていただきます。

- つぶやきコーナー：不安と隣り合わせの育児に励む親御さんへ、コロナ禍でも繋がり合うことを大切にしたいという想いからひろば内で相談掲示板を始めました。「コロナ禍でのいやいや期をどう過ごしているか」「電車等の公共交通機関は利用しているか」などの様々な相談に対し、掲示板を見た方が答えていきます。身近な地域での繋がりを感じられる温かい掲示板になっています。



- Facebook 開設：家庭育児で、子どもと二人きりで過ごすことも多い利用者へひろばから何か発信できるのではないかと考えFacebookを開設しました。家庭で出来る簡単な工作や手遊び等を載せるようにしました。小さな取り組みですが、子育て家庭への支援に繋がればと思っています。

3. 結果

コロナ禍で予約制のひろばも多い中、ぽっぽちゃんひろばではふらっと立ち寄れるよう予約制にはしていません。そこで知り合った親子やスタッフが繋がっていき、地域で親子の育ちをサポートします。コロナ禍での育児は、想像を超える大変さがあります。つぶやきコーナーを介して育児について同じ悩みを持つ人がいると知ることだけでも、心に余裕が出来ると思います。コロナ禍の取り組みを

通し、苦しいときこそ人と人が繋がり合うこと、また子育て家庭の支援を担うものとして、微力でも出来る事を見つけ実践し続けることが大切であると感じました。

4. 考察と今後の課題

ぽっぽちゃんひろばは、今後も「親子の居場所となるひろば」「親子と共に育ち合うひろば」「地域に根差したひろば」「情報を収集できるひろば」を目標に、ほっとした温かな空間の中で遊びを楽しむ居場所作りや、当法人保育園とも協働し地域活動に参加するなど更なる支援の向上に繋げていきたいと考えています。また、地域ボランティアに関わってもらうことで利用者と地域を繋ぎ、地域全体で親子の育ちを支援する基盤を作っていきたいと考えています。

社会福祉法人福音寮は、地域から虐待を無くすことを目指しています。一人でも多くの子ども、そして子どもを取り巻く大人が家庭で温かく生活し続けられるよう、地域全体でサポートしていくことが求められると思います。育児は親だけがするものではありません。家庭で完結できるものでもありません。本当に苦しんでいる人は、SOSを出しにくい現状があります。地域の方に関心を持ってもらえるよう、そして気軽に立ち寄ってもらえるような福音寮でありたいです。子ども達はもちろん、関係する人々が育ち合える温かな地域社会を作ることが、福音寮のこれからの使命だと考えています。



<助言者コメント>

園田 巖（東京都市大学人間科学部児童学科准教授）



発表を拝見して、コロナ禍のなかの子育て支援活動の難しさが伝わってきました。見通しの立たない厳しい社会環境のなか、ひとつの方法論にこだわらずその時点で実現可能な対応を考え、そして実践していることに関して実に頭の下がる思いがしました。ぽっぽちゃん広場の取り組みには多くの学ぶべき点があると考えられますが、今回は特に次の3点について注目してみたいと思います。

①当事者本人のニーズやライフ・ストーリーに寄り添った支援の展開

ぽっぽちゃん広場の取り組みは、実に多種多様です。「つぶやきコーナー」や「Facebook」、アウトリーチを意識した「出張ひろば」、そして予約なしで誰もがふらっと訪れることができる「ひろば事業」等です。利用者が参加しやすい多様なオプションを準備することで、極めて個別的なニーズを捉えることができているのではないかと考えられます。また、利用者のライフ・ステージを意識した支援は、「切れ目のない支援」を具現化したものと言えるのではないのでしょうか。

②当事者同士のつながりを意識したピアサポート

今回の発表を通して強く感じたのが、利用者や地域のつながりから生まれる当事者性の尊重の視点です。当事者同士のつながりを意図した取り組みには、ピアサポートの基本があると考えられます。

③緊急事態になる前の予防の視点

これらの一連の取り組みの効果は目に見えるかたちで明確に確認されないかもしれませんが、のびきならない状況になる前の予防の視点は、地域子育て支援の神髄とも言うべきものでしょう。

インクルーシブ社会の実現のために、今後の更なるご活躍を期待しています。